



# TS Sustainability Report 2025

TSサステナビリティレポート 2025

if

もしもを叶えるIT。

IT

わたしたち、トヨタシステムズのITは、  
あなたが待ち望む未来を叶えるITでありたい。

もしも、交通事故がゼロになったら。  
もしも、自由に空を飛べたら。  
あれも、これも、もう「もしも」じゃない。  
わたしたちのITとつくる、すぐそばにある未来だ。



**TOYOTA SYSTEMS**

私たちはトヨタグループのITソリューション企業です。



名古屋本社／名古屋市中村区名駅1-1-1 JPタワー名古屋32F 東京本社／東京都港区港南1-8-23 Shinagawa HEART 14F

株式会社トヨタシステムズは **デジタルパーク** のオフィシャルパートナーです。



# CONTENTS

- 01 レポート概要・会社概要
- 02 基本理念
- 03 CEOメッセージ
- 04 サステナビリティビジョン・社外からの評価
- 05 従業員データ
- 06 主なSDGsに関する取り組み
- 07 サステナブルな働き方
- 08 健康経営の取り組み
- 10 社会貢献活動
- 13 事業を通じたSDGsへの貢献
- 24 [特集1]カーボンニュートラルへの取り組み
- 25 [特集2]IT機器リユース
- 26 [特集3]防災イベント
- 27 [特集4]TSパートナー会



## レポート概要

## 編集方針

トヨタシステムズの取り組みをさまざまなステークホルダーの方々へわかりやすくお伝えすることを目的に、本レポートを発行する運びとなりました。本レポートは2024年度における当社の取り組みやトピックスを中心にコンパクトにまとめて報告しています。

## 報告期間

2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)の活動を中心に報告していますが、それ以外の期間も一部含まれます。

## 想定読者

お客様、お取引先、従業員、株主、地域社会、行政などのステークホルダーのみなさまを読者として想定しています。

## 将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、トヨタシステムズの過去と現在の事実だけではなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これら予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報にもとづいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果が本冊子に記載した予測・予想・計画とは異なったものとなる可能性もありますが、トヨタシステムズは、このような事態への責任を負いません。読者のみなさまには、以上をご承知いただくようお願い申し上げます。

## 会社概要

## 会社概要

|       |                                                   |
|-------|---------------------------------------------------|
| 社名    | 株式会社トヨタシステムズ                                      |
| 名古屋本社 | 〒450-6332<br>名古屋市中村区名駅1-1-1<br>JPタワー名古屋 32F       |
| 東京本社  | 〒108-0075<br>東京都港区港南1-8-23<br>Shinagawa HEART 14F |
| 代表者   | 代表取締役社長 北沢宏明                                      |
| 設立    | 2019年1月1日                                         |
| 資本金   | 54.5億円                                            |
| 売上    | 2,279億円(2024年度実績)                                 |
| 出資    | トヨタ自動車(株)100%出資                                   |

## 事業所一覧

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国内 | 名古屋本社／東京本社／<br>栄オフィス／ミッドランドオフィス／名駅オフィス／<br>高岳オフィス／豊田オフィス／<br>大阪営業所／九州営業所／東北営業所                                                                                                                                                                                                                                        |
| 海外 | アジア<br>TOYOTA TSUSHO SYSTEMS SINGAPORE<br>PTE. LTD. / TOYOTA TSUSHO SYSTEMS<br>(THAILAND) Co., Ltd. / TOYOTA<br>TSUSHO SYSTEMS INDIA Pvt. Ltd. /<br>PT.TOYOTA TSUSHO SYSTEMS<br>INDONESIA / TOYOTA TSUSHO<br>SYSTEMS CHINA<br><br>欧州<br>Toyota Tsusho Systems EUROPE GmbH<br><br>米州<br>TOYOTA TSUSHO SYSTEMS US, Inc. |

# 基本理念

## 基本理念

トヨタシステムズはトヨタ自動車(株)と基本理念を共有しております。

トヨタ自動車(株)と同じく企業活動を通じて、社会・地球の持続的な発展に貢献することをめざしています。

## トヨタ基本理念

- 1.内外の法およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、国際社会から信頼される企業市民をめざす
- 2.各国、各地域の文化、慣習を尊重し、地域に根ざした企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する
- 3.クリーンで安全な商品の提供を使命とし、あらゆる企業活動を通じて、住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組む
- 4.様々な分野での最先端技術の研究と開発に努め、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる商品・サービスを提供する
- 5.労使相互信頼・責任を基本に、個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる
- 6.グローバルで革新的な経営により、社会との調和ある成長をめざす
- 7.開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する

## 経営ビジョン

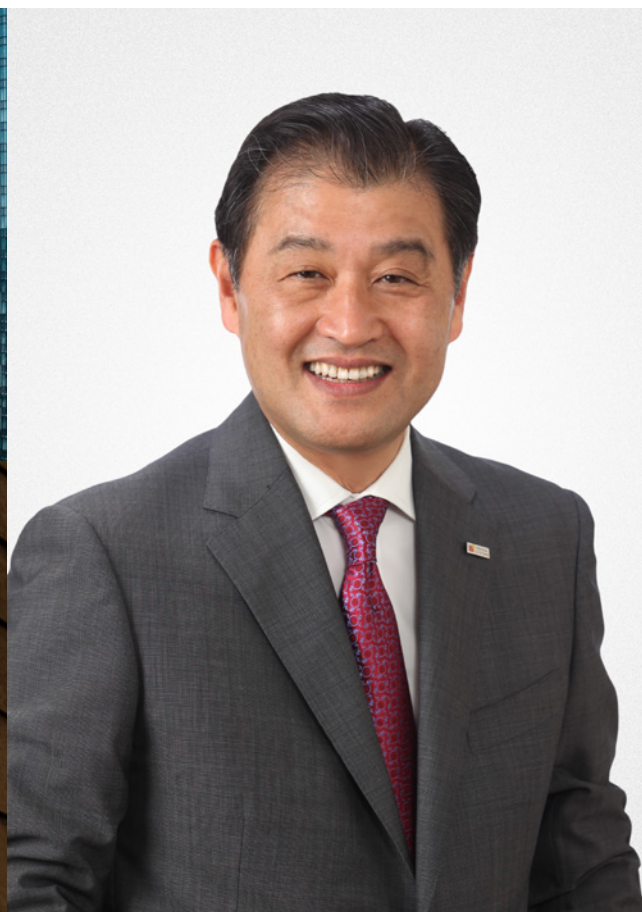
- 1.期待を超えるITソリューション、魅力あるサービスの提供によってトヨタおよび関連会社のビジネス変革に貢献する。
- 2.先端技術への飽くなきチャレンジと圧倒的な生産性を実現し続け、お客様に最先端・高効率なシステムを提供する。
- 3.高い倫理観とオープンでフェアな事業活動を通じ、すべてのステークホルダーに笑顔と満足をお届けし、SDGsの目標達成と持続可能な社会の実現に貢献する。
- 4.従業員が誇りとやりがいを持ち、安全・健康で安心して働くことができる環境を整えるとともに、多様な人材が集まり、活躍できる仕組み・機会を提供する。

トヨタシステムズは、

ステークホルダーの満足と価値創造で、

世界のリーディングITカンパニーを目指します。





Message from Chief Executive Officer

## CEOメッセージ

日頃より、格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

トヨタシステムズは「トヨタ基本理念」にもとづき、会社設立より事業活動を通じて社会・地球と調和のとれた持続可能な社会に率先して貢献してまいりました。

環境問題や食糧問題など、世界にはさまざまな社会課題がありますが、新しいシステムやアプリ開発を通して、働き手の負担軽減、電力・ガソリン使用料の削減、紙の削減など私たちにできることを一つひとつ取り組んできました。また、海岸清掃活動や繊維リサイクルなど、従業員やそのご家族と社会貢献活動に継続して取り組むことで、わたしたちの日常の中にも社会課題の解決につながる可能性があるという意識づくりを推進しています。

当社は「従業員の健康を第一に考え、明るく・楽しく・元気よく働き、幸せに暮らせる職場づくり」を方針とし、健康経営を積極的に推進しています。従業員のヘルスリテラシー向上を目的としたセミナーの開催や、健康管理サポートアプリの導入など、日常の中で健康を意識できる環境づくりに取り組むことで、従業員一人ひとりの心身の健康をサポートし、ウェルビーイングの向上を目指しています。これらの活動の成果として6年連続で健康経営優良法人ホワイト500に認定されたほか、子育てサポート企業の最上位の認定となる、プラチナくるみん認定を取得することができました。

当社はこれからも、持続可能な社会の実現に向け、事業を通じて社会課題解決に取り組み、成長してまいります。

代表取締役社長

北沢 宏明

## サステナビリティビジョン



トヨタシステムズは、事業成長を行いながら、国際社会共通の目標であるSDGsの達成にも貢献することを目指しています。

具体的には「製品・サービス」「最先端技術」「ダイバーシティ」の3つのテーマに重点を置き、活動を推進しています。

## 社外からの評価



## 健康経営優良法人ホワイト500

会社発足から6年連続で、健康経営優良企業に送られるホワイト500に認定。



## 「Sport in Lifeプロジェクト」への参画

スポーツを通じて、一人ひとりの活力ある生活を後押しするプロジェクト。スポーツや健康に関する取り組みが評価され、参画を承認。



## あいち女性輝きカンパニー認証

女性の活躍促進に向け、ワーク・ライフ・バランスの推進や働きながら育児・介護ができる環境づくり等、積極的に取り組んでいる企業を愛知県が認証。



## 名古屋市女性の活躍推進企業認定

女性がいきいきと活躍できるような取り組みをしている企業を認定し、その中でも特に優れた取り組みをしている企業を表彰。



## テレワーク先駆者百選

テレワークの導入・活用を進めている企業・団体を「テレワーク先駆者」と認定し、その中から十分な実績を持つ団体などを「テレワーク先駆者百選」として公表。



## スポーツエールカンパニー

従業員の健康増進のため、スポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行っている企業を認定する制度。会社発足から6年連続で認定。



## プラチナくるみんマーク認定

プラチナくるみんは、子育てサポート企業として「くるみん」認定を受けたうえで、さらなる両立支援の制度の導入や高い水準の取り組みを行っている企業が厚生労働省から認定されます。



## 愛知県ファミリーフレンドリー企業表彰

法定基準以上の育児・介護に関する制度や短時間勤務制度を有し、かつ多くの利用実績のある企業を表彰。



## 名古屋市子育て支援企業認定

子育てにやさしい企業活動を行っている企業を表彰。2020年度優秀賞受賞。



## 花の王国あいちサポート企業認定

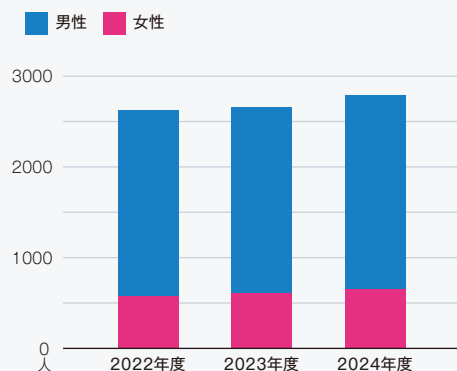
花いっぱい県民運動の趣旨に賛同し、愛知県産の花を用いた活動を実践している県内企業等を「花の王国あいちサポート企業」として認定。

## なごやSDGsグリーンパートナーズエコ事業所認定

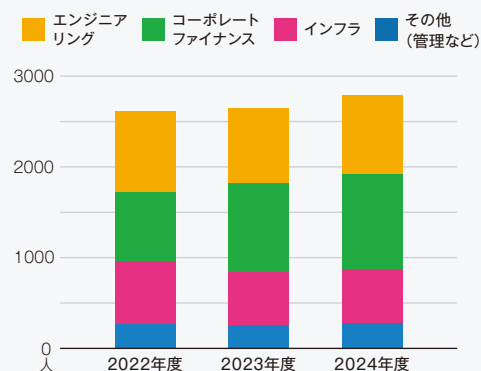
事業活動においてSDGsの実現に向け取り組む事業所を、名古屋시가「なごやSDGsグリーンパートナーズ」として登録・認定し、自主的な取り組みを支援するもの。栄オフィスは最上位認定である認定優良エコ事業所認定を取得。

## 従業員データ

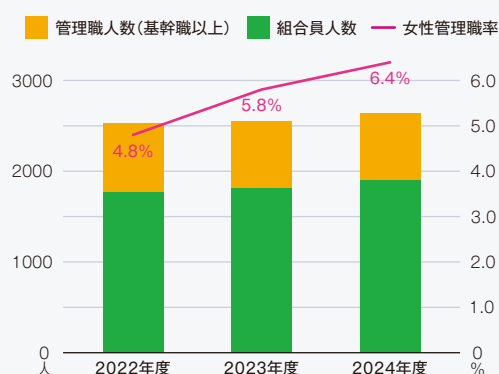
男女別 従業員数



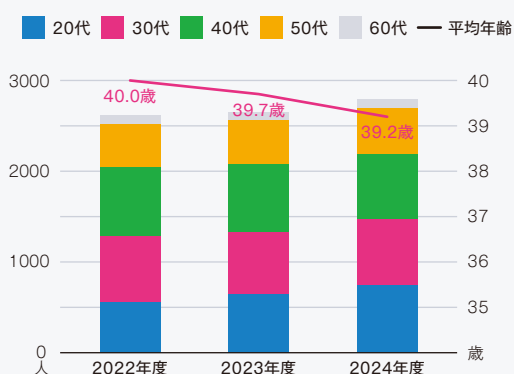
所属別 従業員数



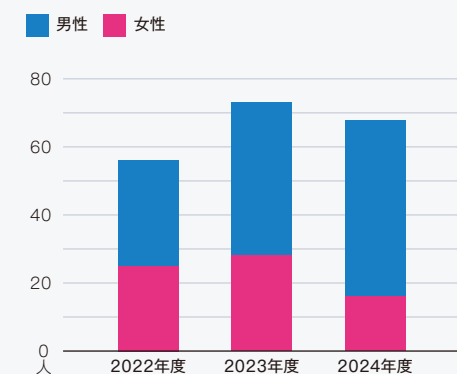
役職別 従業員数



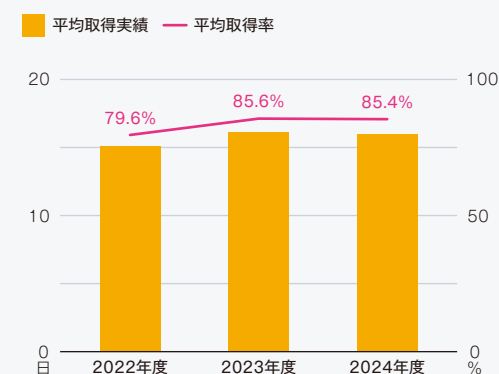
年代別 従業員数



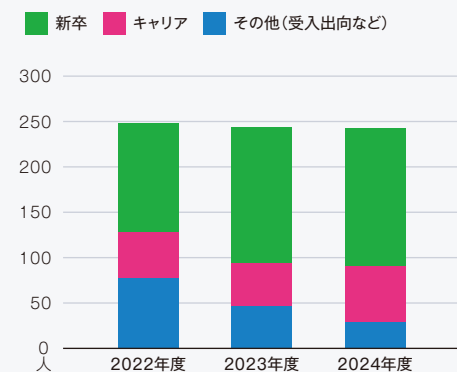
育休取得者数



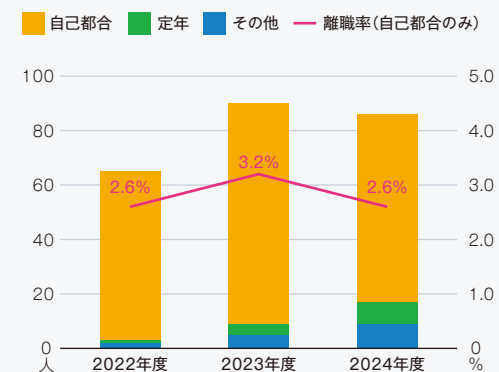
年休取得数



入社状況



退社状況



# 主なSDGsに関する取り組み



SDGsは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月の国連サミットにて世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

| SDGs目標                                                                              | トヨタシステムズ取り組み内容                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 災害備蓄品寄贈、災害支援金寄付、フェアトレード製品導入                                                                         |
|    | 交通事故発生抑止活動、ホワイト500認定、健康イベント開催、勤務多様化(在宅・フレックス勤務制度、育児・介護休暇制度)、3DV・永年勤続休暇制度、フードドライブ、エコドライブ&スマートムーブ推進活動 |
|   | LGBTQ+従業員教育                                                                                         |
|  | 社内照明LED化、業務用車にハイブリッド車採用、クールビズ・ウォームビズ                                                                |
|  | システム開発による自動車産業への貢献、アジャイル開発推進                                                                        |
|  | BCP策定、BCM対策活動、白川郷茅場保全活動                                                                             |
|  | 社内照明LED化、業務用車にハイブリッド車採用、クールビズ・ウォームビズ、デコ活賛同                                                          |
|  | ペーパーレス、白川郷茅場保全活動                                                                                    |
|  | トヨタ自動車(株)およびトヨタグループとのパートナーシップ                                                                       |

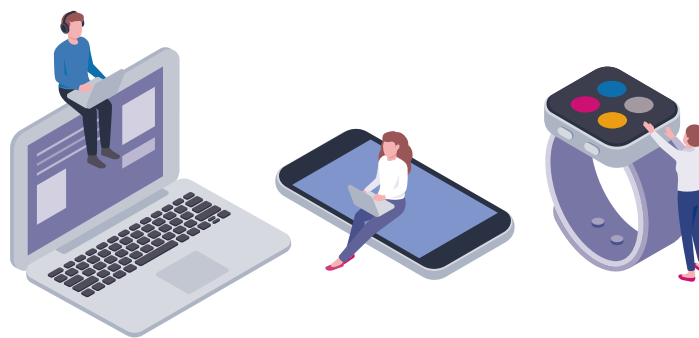
| SDGs目標                                                                               | トヨタシステムズ取り組み内容                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 災害備蓄品寄贈                                                                              |
|    | リユースPC寄贈、障がい者・児童福祉施設へのPC・プログラミング教育、地域の中学生に職場体験実施、全国高専プログラミングコンテスト協賛、スポーツ活動協賛         |
|   | 海岸清掃活動                                                                               |
|  | 障がい者雇用、リユースPC作業を障がい者施設へ委託、ノベルティを障がい者施設へ発注、勤務多様化(在宅・フレックス勤務制度、育児・介護休暇制度)、3DV・永年勤続休暇制度 |
|  | LGBTQ+従業員教育、フェアトレード製品導入、発達障害啓蒙活動                                                     |
|  | リユースPC寄贈、災害備蓄品寄贈、ペーパーレス、フェアトレード製品導入、古本寄贈、フードドライブ、繊維リサイクル                             |
|  | 海岸清掃活動                                                                               |
|  | コンプライアンス社内啓蒙、適正取引、フェアトレード製品導入                                                        |

# サステナブルな働き方

従業員が持続可能な働き方が実現できるよう、サポート環境を整えています。

## ITツールの活用

ITツールを有効活用し一人ひとりが働きやすい働き方を実現しています。全従業員に在宅勤務環境が整っています。



## 仕事と家庭生活の両立支援

育児・介護がしやすいだけでなく、キャリア形成との両立を目指した支援制度の充実を図っています。

### 主な支援内容

|                                                                  |                                                                |                                   |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 不妊治療特別休暇                                                         | 時差勤務、勤務時間の短縮                                                   | 在宅勤務制度                            |
| <b>出生時育児休業</b><br>子の出生後8週間以内に4週間（28日間）まで2回分割取得可能                 | <b>育児休暇</b><br>配偶者が出産した際、3日間の特別休暇（有給）                          |                                   |
| <b>早期復職制度</b><br>子が1歳に達するまで<br>復職後、託児施設などの利用費用補助                 | <b>育児休業</b><br>子が満2歳に達するまで<br>最大4回まで分割取得可能                     | <b>時間外労働の免除</b><br>子が小学校の始期に達するまで |
| <b>子の看護休暇</b><br>子が小学校4年生終了まで<br>子を看護（予防接種、検診含）するための特別休暇（有給）年12日 | <b>育児時短勤務</b><br>子が小学校4年生終了まで<br>短縮後の労働時間は最低6時間（2歳になるまでは4時間以上） |                                   |

## 働きやすいオフィス環境

多様なワークスタイルに対応したオフィス環境を構築しています。



### Work Terrace

カフェのようにリラックスできる空間。打合せはもちろん、昼食や小休憩など、さまざまなシチュエーションで活用可能。



### 高集中スペース

作業効率をUPさせる高集中スペース、オフィスにしながら自分時間をつくる個人ブースを設置。

# 健康経営の取り組み ― 従業員の「明るく・楽しく・元気よく」を支えるサステナブルな職場づくり

私たちは、従業員の健康を企業の持続的成長の基盤と位置づけ、健康経営を積極的に推進しています。健康意識を高めるための多様な施策や環境づくりを通じて、従業員が心身ともに充実した状態で働けるようサポートし、生産性の向上と企業のさらなる発展を目指しています。

## 活動内容

従業員一人ひとりが「健康は自らつくる」という意識を持ち、主体的に健康づくりに取り組めるよう、自己管理を促進するためのツールの提供や定期的なセミナーの開催、メンタルヘルスケアなどを行っています。

この取り組みは、経済産業省が創設した顕彰制度において、「健康経営優良法人（ホワイト500）」に6年連続で認定されるなど、外部からも高い評価を受けています。

### 1 TS健康ポイント制度

楽しみながら健康づくりに取り組めるよう、健康施策への参加や日々の健康行動、健康診断結果などに応じてポイントを付与、貯まったポイントは好きな商品と交換ができるインセンティブ制度を導入しています。



### 2 健康管理サポートアプリの導入

日々の歩数や食事・睡眠・体重などライフログの記録や、健康診断結果も閲覧できるアプリを全従業員に提供し、毎日の健康管理をサポートしています。

タイムリーにランキング化される歩数表示や健康クイズ、さまざまなカテゴリーの中から習慣化したい健康行動（クエスト）を選択し、達成していくゲーミフィケーション機能などを活用することで、モチベーションの維持やコミュニケーションの促進につながっています。

### 3

#### ウェルネスツールの設置

職場でも自発的に健康を意識した行動ができるような環境づくりを促進しています。健康的に正しく歩くための歩幅をチェックできるカーペットや、土足で測定可能な体重組成計、血圧計などをオフィス内に設置しています。

また、姿勢改善や運動不足の解消を目的に、バランスチェアやスクワツツール、運動時に発電ができるフィットネスバイクなど、オフィスやフロアによって異なるツールを設置し、従業員それぞれのニーズや好みに応じて選択し、利用ができるような工夫をしています。





4

#### 生産性を向上させるパワーナップの推奨

仕事の合間のリフレッシュを目的に、男女別の休憩スペースを設け、電動リクライニングソファを設置しています。昼食後の休憩時間にパワーナップできる環境を提供し、短時間で疲労感を軽減させることで、集中力やパフォーマンスの向上につなげています。

5

#### ラジオ体操の実践

短時間で行える効果的な運動習慣の一つとして、毎日昼食後、ラジオ体操を行っています。身体的な効果に加え、組織の一体感やコミュニケーションの活性化、転倒予防や姿勢改善にもつながる取り組みとして、継続して実施しています。



6



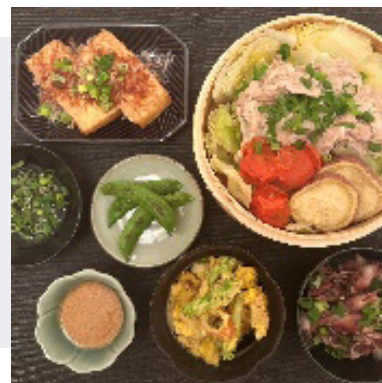
#### 女性特有の健康課題への取り組み

毎年、女性の健康（不調・疾病など）をテーマにしたセミナーの開催や、周囲の目に気せず利用できるよう、女性専用の休養スペースを設け、乳がんの早期発見につながる自己触診をリアルに体験できる「乳がん触診モデル」やセルフチェック方法を解説したリーフレットを設置するなど、啓発活動を行っています。

7

#### 多様な健康イベント企画の実施

健康づくりへのモチベーションの維持・向上を目的に、個々の取り組みの共有や期間限定のイベントを企画し、展開しています。経営層が自身の取り組みをリレー形式で紹介、禁煙成功者による体験談の展開、健康にまつわるエピソードを詠んだ「健康川柳」や三色の食品群をそろえた「バランスレシピ」のコンテスト、毎年異なる趣向で開催するウォーキングイベントなど、ユニークな企画を定期的に行っています。



8



#### 感染症対策

従業員だけでなく、弊社で働かれている他社の方にも、毎年社内でのインフルエンザワクチン接種機会を提供し、蔓延防止対策を行っています。罹患時の対応ルールも徹底して管理し、安心して働ける環境を整備しています。

# 社会貢献活動

当社の社会貢献活動は下記2点を基本コンセプトとして企画・運営をしています。

1. 従業員とその家族が参加できる地域、社会課題に対応した体験型の活動

2. IT企業としての強みを生かし、未来を担う子供たちへの学習、障がい者の就労を支援する活動

1.については社会貢献と福利厚生をあわせたイベント型の活動として、春は海岸清掃といちご狩り、秋は白川郷での茅場保全と各種体験を実施しています。また、ご家庭から寄贈用の食品（フードドライブ）や衣服などの回収（繊維リサイクル）を行ない、被災地の支援、3Rの推進を行っています。

2.については社内で更新対象となったPCを児童福祉施設や障がい者施設に過去から累計2,000台以上寄贈しています。また施設を対象にPC教室やプログラミング教室を開催し、障がい者や子ども達を支援しています。その他、中学生の職場訪問・体験の受け入れも行っています。



## 2024年度の活動トピック

### 1 従業員とその家族が参加できる 地域、社会課題に対応した体験型の活動

4月の蒲都市での海岸清掃には402名、10月の白川郷茅場保全活動には115名の従業員とその家族が参加しました。また4月にフードドライブ、10月に繊維リサイクルを実施しました。



### 2 IT企業としての強みを生かし、未来を担う 子供たちへの学習、障がい者の就労を支援する活動

リユースPCは名古屋市、愛知県、福島県の福祉施設に241台を寄贈、障がい者福祉施設向けのPC教室などは50回、児童福祉施設向けのプログラミング教室は5回開催しました。また、中学生の職場訪問・体験は前年度の2倍以上の33校を受け入れました。

# 社会貢献活動



## 海岸清掃

4/20(土)蒲郡市の星越海岸で、従業員と家族402名で可燃ゴミ64袋、不燃ゴミ4袋(45ℓ/袋)を回収しました。清掃終了後はいちご狩りを楽しみました。また、参加者の自動車移動によるCO<sub>2</sub>排出(約2.5t-CO<sub>2</sub>)に対して、J-クレジットによるカーボン・オフセットを実施しています。



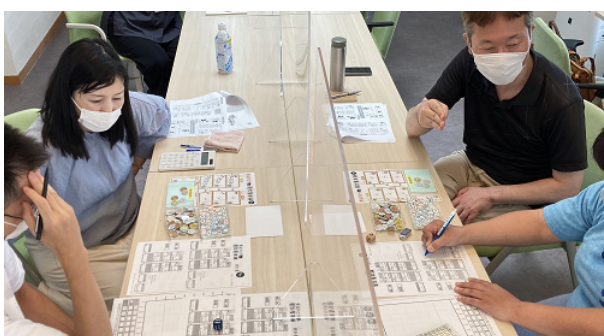
## 白川郷茅場保全

10/5(土)トヨタ白川郷自然学校で茅狩りを実施しました。合掌造り家屋は茅でできた屋根を何十年かに一度、葺き替えないと維持することができません。その茅を育てる茅場を整備する活動です。茅狩り終了後は合掌造り屋内を見学するツアーを、夜にはナイトハイクや焚火の火おこしなどを体験しました。



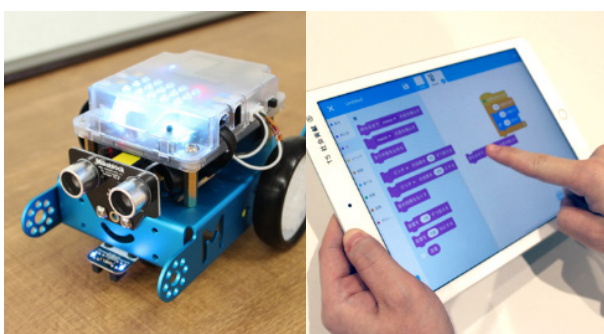
## リユースPC寄贈

社内で更新対象となったPCを回収し、データ消去、動作確認後、寄贈用のライセンスを購入、OSの導入とクリーニングは障がい者施設に委託し、福祉施設に対して241台のリユースPCを寄贈しました。この取り組みで愛知県、名古屋市から感謝状をいただきました。



## PC教室など

障がい者施設向けのPC教室を42回7名に、会計をテーマにしたビジネスゲームを2回4名に、座談会(当社で働く障がい者との対談やシステムエンジニアの働き方の紹介など)を6回19名に対して実施しました。これらの活動には従業員ボランティアも参加し、年間をととして障がい者の就労支援を行っています。



## プログラミング教室

2020年度の小学校プログラミング教育必修化を機に、児童福祉施設向けにプログラミング教室を開催しています。教室ではタブレットPCでブロック言語を学び、ロボットカーを動かすプログラムを作成してもらいます。2024年度は5回の開催でしたが累計100回以上教室を開催しています。

# 社会貢献活動



## 中学生職場訪問・体験

名古屋本社ではオフィス・ASUNOVA Lab TSの見学、プログラミングの体験など、東京本社ではドライビングシミュレーター、CG体験などをさせていただきました。2024年度は33校194名の中学生が来社、修学旅行の行程に当社への訪問が組み込まれ、全国の中学生が東京本社を訪れました。



## フードドライブ、備蓄品寄贈

4月、能登半島地震被災者への支援のためフードドライブを実施しました。従業員の家庭から229個(50kg)の食品を回収し、セカンドハーベスト名古屋様へ寄贈しました。また11月、更新対象となった社内の災害備蓄品(食品570個、水2,600本)をフードバンク愛知様に寄贈しました。



## 繊維リサイクル

10月、従業員の家庭から寄贈可能なコットンまたはポリエステル100%の衣服などの繊維を回収し、(株)ナカノ様へ寄贈しました。回収された繊維は廃棄物を出すことなく新しい繊維に循環されます。豊田通商(株)様「PATCHWORKS」と協働の活動です。



## フェアトレードなど

5月の世界フェアトレード(FT)・デーにあわせて、オフィス内でFT紅茶6,000バックを配布しました。立場の弱い開発途上国の生産者・労働者を支援する社内の啓発活動です。また、4/2世界自閉症啓発デーにあわせた名古屋市の発達障害啓発プロジェクトに協賛し、アールブリュット柄の缶マグネットを寄贈、社内発達障害への理解促進のための啓発を行いました。



## デコ活

### エコドライブ、スマートムーブ

デコ活はCO<sub>2</sub>を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と、環境によいエコ(Eco)を含む"デコ"と 活動・生活を組み合わせた言葉で、当社もこの取り組みに参加しています。12月の交通安全月間ではエコドライブ10のすすめと、スマートムーブが推進する5つの取り組みを社内展開しました。



島田 一輝

新規事業開発本部 新規事業開発推進部

## ドライブレコーダーを利用した 運転評価システムによる 高齢者の運転寿命延伸

### 事故予防を実現し運転寿命を延伸する、運転評価システム。

新規事業開発本部では、社会問題を解決するための事業を考えるプロジェクトを行っています。今回は高齢者の事故をテーマに、ドライブレコーダーを利用した運転評価システムの開発をスタートし、事故予防の実現と事業化を目指しています。高齢者の事故は、免許返納だけでは根本的な解決になりませんので、自分の運転の現状を知り、改善することで運転寿命を延ばすことにつながればと考えています。

### ドラレコ映像から運転技能を評価し、運転傾向を把握。

ブレーキやアクセル、ハンドルの動きから運転評価を行う方法が世の中では一般的になっているのですが、今回開発しているシステムでは車内外の映像から運転行動を確認して分析します。現在は、交差点シーンにフォーカスして運転評価の分析を行っており、交差点進入時の減速や一時停止、左右確認などの予防安全行動ができているかどうかを判断しています。運転者本人だけでなく、ご家族、お勤め先の方などが一緒にフィードバックを受けられるような仕組みも考えているため、免許の延伸と返納のタイミングをしっかりと見極めるツールとしても活用いただければと思っています。

### 運転評価だけでなく、最終的には健康の異常検知までの実現を目指す。

将来的には、運転を通して健康に関する異常の検知をできるようにして健康の維持に貢献できればと考えております。また近い将来の高齢化社会での安全運転に貢献すべく、業界を問わず活用いただけるようなシステムの実現、事業化モデルを考えています。

## 全社の新規事業企画創出・推進活動の事務局運営

### 積極的な挑戦マインドを促し、新規事業を行う人を募る。

トヨタシステムズのビジョン「Vision2030」では、新規ビジネス創出の加速が掲げられており、私たちは、変化の激しいこの時代において、変革を推進する積極的な挑戦マインドを促す必要があると考えています。ビジョンの達成に向けた新規事業の創出・推進活動の事務局活動はまだまだ手探りではありますが、ITサービスを活用した新たな企画を検討する人を集め、起案者とともに汗を流しながら、アイデアをテーマ化して企画推進するにあたり必要な支援体制を提供しています。

### コミュニティを盛り上げ、エントリー後のサポートも。

新規事業へのエントリーを増やすための施策として、まずは事務局から継続的に情報を発信するようにしています。また、新規事業に興味をもつメンバーが活動に参加しやすくなるためのコミュニティをつくり、ワークショップや勉強会などを行っているほか、エントリーした方に対しては、週1回のアイデア壁打ちや情報共有に加え、法務・経理・人事・調達などのシェルパによるサポートも活用しながら、支援を行っています。新規事業を進めるにあたって取り入れているのは、プロセスを複数のステージに分け、一定の要件をクリアできたら次のステージに移行するS&G（ステージ&ゲート）という方法です。私たち事務局と一緒に一歩ずつ着実に進んでいけるような設計にしています。

### 各種イベントをエントリーのきっかけにしていきたい。

新規事業はハードルが高いと感じる方が多いため、まずはコミュニティの集会・ピッチイベント・ワークショップなどに参加することで新規事業を考えることのおもしろさを感じていただきたいと考えています。これからもエントリーする方を絶やさないための環境を整え、生まれたアイデアを粘り強く推進するために、エントリーした方への寄り添いを強化し、事業化までのプロセスを円滑に進めていきたいです。また、事業化により得た知見をトヨタグループにも還元していきたいと考えています。

林 宏紀・金森 愛実

戦略企画本部 戦略企画部





澤口 元・篠田 隆成

制御本部 ダイアグサービス部

## 電気自動車用蓄電池を 活用した定置用蓄電池の 見守りシステムの開発

### 蓄電池の見守りシステムの開発は、新領域へのチャレンジ。

トヨタ自動車(株)では、電気自動車の電池を活用した定置用蓄電池の実証実験を進めています。この蓄電池は、風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーで得た電力を貯めておくためのものです。トヨタシステムズでは蓄電池からデータを取得して、電池の蓄積情報を確認したり異常を監視したりできる「見守りシステム」を開発しました。私たちはこれまで車に対してのシステム開発を主領域としてきていたので、車以外に対するシステム開発という新たな領域へのチャレンジとなりました。

### ダイアグ仕様/通信の知識を開発に活かすことができた。

今まで車の故障診断ツールの開発をするなかで、車の制御装置からデータを取得するダイアグ仕様/通信の知識を培ってきており、車載電池を制御装置ごと利用する定置用蓄電池においても、その知識を活かした開発を行うことができました。ただ、今回ハードウェア上にアプリを構築してデータを取得したのですが、ハードウェアの不具合でデータが取得できないことがありました。ハードウェアは専門外でしたが、トヨタ自動車(株)と協力しながら問題解決を行い、安定したデータ取得を達成することができました。

### エネルギーの地産地消や循環型社会に貢献していきたい。

電気自動車電池を活用した定置用蓄電池が展開されることで、エネルギーの地産地消や、循環型社会の実現に貢献できます。私たちが開発する見守りシステムは、それを支えるものとして必要な存在になるのではないかと思います。今後は、蓄電池の改善にあわせて見守りシステムの質向上やハードウェア数の最適化などを行い、定置用蓄電池のさらなる発展につなげていきたいと考えています。

## サーバー・端末の老朽更新時に リユース制度を適用

### リユース制度の範囲を拡大し、都市鉱山を有効活用。

トヨタ自動車(株)では、不要になった電子機器を豊田通商(株)に販売し、金属資源を取り出して再利用する「リユース制度」が活用されています。しかし、適用範囲が限られているため、これまでは使えなくなったサーバーや端末は雑品倉庫へ廃却していました。そこで、制度の活用を模索してきたトヨタ自動車(株) ITマネジメント部および豊田通商(株)と交渉を行い、今回、トヨタ自動車(株)のサーバー・端末の老朽更新を行う際に範囲の拡大を実現。東富士研究所などにも広げることができました。

### データセンターへのサーバー移行もSDGsの一環に。

今回、リユース制度を活用したのは、全サーバー撤去方針が決定したトヨタ自動車(株)の事務4号館のサーバールームです。約20年前に作られたということもあり、電源容量が不足しており、サーバーもかなり増えていました。サーバーの寿命を確認し、それにあわせて電源容量の多いデータセンターへの移行もしくはリユースを実施しました。サーバールームは部屋自体の温度をかなり下げているのに対し、データセンターでは効率的な空調方式を採用しているため、こちらに移行することもSDGsの一環となっています。

### 端末の老朽更新時にもリユース制度を活用していきたい。

サーバーの入れ替え作業は丁寧に行うことが非常に重要です。それぞれのサーバーの運用担当者と綿密にコミュニケーションを取りながら実施することを心がけました。今後は、データセンターに移行したサーバーの管理を徹底し、将来の廃却・リユースをスムーズにすることを目標にしていきたいと思います。また、今年度はWindows10サポート切れにともなう端末の老朽更新にもリユース制度を活用していきたいです。

石江 聖二

解析本部 シミュレーションサービス部



外西 康之・松浦 麻未

PLM・CAD本部 CAD運用・育成サービス部

## 次世代CAD教育による技術革新の促進とeラーニング導入によるワークライフバランス推進

### お客様の需要に応えることで技術革新を促進。

CAD運用・育成サービス部では、お客様への教育サービスを提供しています。今回行ったことのひとつは、CADとVRを融合したエンジニアリング教育の導入です。VRについて教えるのは私たちも初めてでしたので、教育サービスとして確立させるため、まずは自己学習や勉強会を行い専門的な知識をつけました。その後、教育マニュアルを作成し、実際に教育を行い、不明点のサポートまで行っています。VRを導入してデザインを開発されることが増えてきているお客様の需要に応えることで、次世代のモノづくり開発に貢献していけたらと考えています。

### 講師・受講生双方のワークライフバランスを推進。

もうひとつは、eラーニングの導入によるワークライフバランスの推進です。これまでは、講義は対面となっており、ときには長期の出張もありました。講師の担当は女性が主で、時短勤務の方も多かったため、働きやすい環境にするためにeラーニングを導入しました。区切りよく学習できる構成の検討や補足動画の導入を行い、さらにQAサービスと知識の定着を図る学習テストを組み込み、メンバーの知見を活かしながら作り上げました。eラーニングにより、講師側、受講生側ともに時間や場所を制限されない効率的な働き方が実現したことで、ワークライフバランスの推進に貢献できたのではないかと思います。

### 仕事のやりがいも創出しつつ、トヨタグループの発展に貢献。

現在、並行して対面講義も続けているのですが、時短で出張が難しいメンバーはeラーニングに関する業務において活躍できる場面が増え、仕事のやりがいにもつながっています。これからも、CAD関連の動向、生成AIなどの新技術の動向にしっかり目を向けながら、トヨタグループの発展に向けて貢献していきたいです。

## 次期T・PODシステム構築

### T-PODのスリム化と業務効率化を提案し、プロジェクトを始動。

T-PODは、トヨタの販売店やレンタカー店などで使用する販促物や印刷物のオーダー受発注および倉庫オペレーションをサポートするシステムです。今回、老朽化にともなう更新のタイミングで、今後のビジネスの多様化と効率化を目指して市販のSaaS製品の導入を検討しましたが、これまでのカイゼンを重ねてきたトヨタ独自の運用を持続することが最優先であると判断。あわせて今回の検討を通じて気づいた効率化のカイゼンをトヨタ自動車(株)に提案し、現行システムのスリム化と業務効率化を目指したプロジェクトを立ち上げました。

### さまざまな部署と協力しながら業務削減、時間短縮を実現。

業務の変革(ヤメカエ)をテーマに、発注前のトヨタ自動車(株)社内手続きを見直し、上司や部署間の承認回数を3回から1回に減らすことで、ユーザーの業務工数とシステム資源を削減し、スピーディな受発注業務を実現しました。また、トヨタ自動車(株)の各部署や調達部、経理部、財務部など、現場の方のご意見を伺いながら進めたことで、多くの方が納得できるようなものになったのではないかと思います。

### システムによる業務改善を推進していきたい。

次期T-PODシステムの導入後には、ユーザーの業務工数は10%削減され、発注にかかるリードタイムが1~3日短縮される見込みです。システム自体の資産も20%削減できると想定されており、これによりシステムのランニングコスト低減や、ビジネス変化への対応の容易性も向上する見込みです。今後も、システムを単に保守するだけでなくユーザー業務を理解し業務改善を提案できる、システムのつくり手としての責任をもち、ユーザーとの信頼関係を構築していければと考えております。

### 日吉 春華

セールス・カスタマーIT本部 代理店・法人システム部





福田 純己・立岩 朋樺・小池 翔馬

ファイナンスIT本部 FS企画推進部&顧客システム部

## 脆弱性パッチ適用の自動化

### 作業者の負担減と高品質・効率を叶える自動化。

ソフトウェアやOSのセキュリティ上の脆弱性を修正するために提供されるプログラムを脆弱性パッチといい、これまではその適用を手動で行ってききました。システムが動いていない時間帯に実施する必要があるため連続の夜間作業となることが多く、担当者の心身の負担が大きいという声が出ていました。また、脆弱性パッチ作業は日々増加しており、品質を確保しながら効率化する必要が出てきていました。そこでプロジェクトとして行ったのが脆弱性パッチ適用の自動化です。

### さまざまな人と協力しながら前例のない自動化に挑戦。

プロジェクトは私たち3人からスタートし、協力会社の若手のみなさまにも参加いただきながら進めました。自動化の仕組みづくりは前例がなく、さまざまなバックグラウンドをもつメンバーの知見を活かしながら開発を行っていきました。また、自動化を実現するにあたってまずは社内のみなさまにご理解いただけるようコミュニケーションを取り、サーバーを使わせていただきました。プロジェクトを通してスキルを高めながら、メンバー全員で成長することができたと感じています。

### 現行の課題を解決しつつ、自動化範囲を拡大していきたい。

プログラムの品質やシステム環境に関する現行の課題をいかに解決していくのかというのが今後のポイントです。自動化することで、セキュリティリスクの低減、システム担当者の負荷軽減のほか、費用低減にも貢献でき、5年で約1.3億円の低減効果を見込んでいます。2025年3月現在で、自動化率は4%ですので、今後も引き続き実施して自動化の範囲を拡大していきたいです。

## サーバー・データベースの バージョンアップ負担を 軽減する基盤の構築

### セキュリティのリスクが高まる社会に対応。

昨今、IT技術の発展とともに情報漏洩やサイバー攻撃のリスクが高まっており、社会全体でのセキュリティ対策が求められています。トヨタシステムズでは、お客様に安心してITインフラを利用いただけるよう、継続的にバージョンアップを行ってサーバーとデータベースを最新化する必要があると考え、サーバー基盤のバージョンアップの自動化と、データベースのバージョンアップの作業集約を実施しました。

### 作業・利用者の負担を減らし、セキュリティも高める。

これまで、サーバー基盤のバージョンアップの際には、利用者にアプリの使用を止めていただく必要があり、そのための日程調整も必要でした。今回、まったく新しい別のサーバー基盤を立てることで、アプリサーバー無停止で基盤のバージョンアップが可能となり300台のバージョンアップにかかる負担が軽減しました。また、これまではそれぞれのサーバーの中にアプリとデータベースが混在しており、利用者本人がデータベースのバージョンアップ作業をする必要がありました。今回、データベースだけを集約する新たな基盤を作ったことで、500のデータベースを基盤側での1回の作業でバージョンアップ可能となり、利用者の負担を減らすとともにセキュリティも高めることができました。

### 次の脅威に向けた対策を考え続けることが重要。

ITインフラを提供する立場として、利用者が当たり前の問題なくITインフラを使える状況をつくることが大切だと考えています。セキュリティ面の課題には終わりがなく、対策をしてもすぐに新しい脅威が発生することが多々あります。現状に満足せずに、次のセキュリティ対策として何ができるのかを継続して考えることが大切です。先取りして情報を得たり、海外の状況に目を向けたりしながら、今後も改善に取り組んでいきたいです。

## 永井 聖人

アプリインフラ本部 システム基盤サービス部





加藤 達明・渡邊 雄介

インフラ事業本部 TMC事業推進部

## 実証実験拠点の ITインフラ構築

### 実証実験都市を支えるインフラをつくる。

トヨタシステムズは、トヨタ自動車(株)の実証実験プロジェクトにおけるITインフラ基盤の導入・構築に参画しています。この場所では、さまざまな実験を行うことから、一般的な工場やオフィスに比べてハイスペックなインフラが必要です。類を見ない大規模な案件であるとともに、従来のインフラ設計とは一線を画す先進的な技術を用いた構築となりました。

### さまざまな試行錯誤を、今後の糧に。

この構築は、従来導入してきたITインフラとは異なり、さまざまな新技術や製品を用いたため、バグなど想定外の課題も多くあり、対応に苦慮しました。またタイトなスケジュールの中、メンバーやパートナーの協力によりプロジェクトを進めてきました。今回は拠点のITインフラを構築しましたが、今後予定されているさまざまな実証実験に向け必要となるITインフラも順次構築していく計画です。

### 新たな技術を活かし、お客様にとってのメリットを生み出す。

今回のプロジェクトでは、初めて使う部品やこれまでにない設計の考え方、自動化ツールを使った作業など、新しいモノや方法、技術を積極的に取り入れてきました。現場でいいと思ったものは今後も積極的に活用していくことで、お客様に対してのメリットを生み出していけるのではないかと思います。この実証実験プロジェクトにおけるさまざまな取り組みは、SDGsにつながるものも多々あります。私たちが構築したインフラ基盤が、それらの取り組みを下支えするものとして貢献できると嬉しいです。

# TOYOTA DIGITAL WEEK 2024 運営によるTMC一体化支援活動

## 10年先のトヨタの未来を考えるDXイベントを一体となりサポート。

私たちトヨタシステムズは、会社設立当初から「トヨタ自動車(株)との一体化」を掲げて、トヨタ自動車(株)のデジタル経営の基盤作りと社員の意識高揚のため、ツールの導入やリテラシー教育をともに推進してきました。その「基盤作り」から「全社変革」へと段階をシフトし、機能横断で情報を社内につなげる「コーポレート一気通貫DX」活動を、来場者自身が“見て”、“体験し”、“トヨタの未来を考える”ためにイベントを開催することになり、私たちも事務局として本活動に参画しました。

## トヨタのデジタル化の現在地を共有し、変革の実現を考える機会に。

本イベントでは、共通言語で仕事をするための活動「OMUSVI」の取り組みや、顧客体験(CX)をはじめ、さまざまな活動を展示することになりました。こういった大規模なイベントのノウハウはありませんでしたが、情報システム本部・関係組織の方々やパートナー各社様、全員が同じ方向を向いて準備を進め、イベントは無事成功。トヨタ自動車(株)本社での4日間のほか、名古屋・東京・下山(豊田市)を加え、全10日間開催し、来場されたのべ5,699人の方々と、目指すビジョンの共有を行うことができました。

## 未来への期待とビジョンを発信するターニングポイントのひとつになった。

私たちは普段、お客様がもつ多くの課題に対してさまざまな対応をしていますが、今回のイベントではトヨタ自動車(株)全体に内在する課題をITでどう解決するのか、ITで10年後はどう変わるのかといった大きなテーマでITの可能性をお見せすることができたと思います。ですが、思いの共有だけで終わりではなく、このイベントで描いた未来を実現するために、引き続き一体となって取り組んでいけたらと考えております。

### 高木 勝三

ICT・サポート事業本部 オフィスアプリケーションサービス部





大津 知代

管理本部 人事部

## 男性育休の理解促進セミナー

### 男性育休の理解促進セミナーを企画。

人事部では、会社設立以来、仕事と育児の両立支援に取り組んでおり、社長との座談会をはじめ、さまざまな施策を実施しています。2024年2月に実施した男性育休に関する社内アンケートでは、上司や同僚の理解不足やキャリアへの不安が多くの声として寄せられました。また、結婚や出産の年齢が上昇する中で、幅広い年齢層の社員が育休取得に対して不安を感じていることも明らかになりました。そこで、育休取得を促すきっかけや周囲の理解を深めるために、このセミナーを企画しました。

### セミナー参加者の満足度は98.5%に。

今回は、厚生労働省のイクメンスピーチ甲子園で優勝した、イクメンの星であるトヨタ自動車(株)の伊藤翼さんを講師に迎え、ふたつのセミナーを開催しました。子育て世代向けセミナーでは、伊藤さんの実体験をもとに、育休取得におけるパートナーや職場とのコミュニケーションの重要性についてお話いただきました。上司向けセミナーでは、早期に育休取得の予定を伝えてもらえるよう、部下との日頃のコミュニケーションの大切さについて学びました。参加者の満足度は98.5%で、「子供の送迎などを会社スケジュールに公開することで、周囲の理解や協力を得られることに気づきました」との声や、「部下から育休の相談を受けた際には、焦らず一緒に最適な解決策を考えることが大切だと学びました」といった感想が寄せられました。

### 新たな取り組みで両立のコツを学び、キャリア形成を支援していきたい。

2024年度の男性育休取得率は78.8%に達し、ここ数年で大幅に向上しています。2025年度は、男女ともに自分に合った仕事と育児の両立のバランスを見出すことを目的として、共働き・共育てのワークショップを開催します。このワークショップでは、育休や時短勤務を経て職場で活躍する男女先輩社員4名が「人生グラフ」をもとに、仕事と育児の両立のコツやパートナーとの役割分担、キャリアの転機について具体的に紹介します。参加者が自らのキャリアを見つめ直し、より良い働き方を模索する機会となることを期待しています。

特集  
1  
カーボンニュートラルへの取り組み

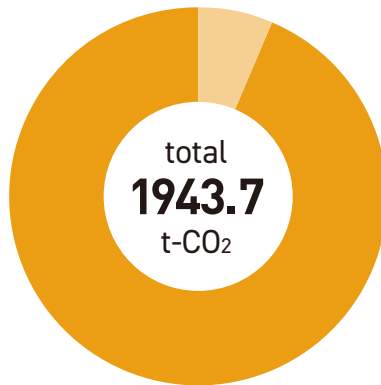
当社は日本国政府、トヨタ自動車(株)が掲げる2050年カーボンニュートラル実現に向け、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

### CO<sub>2</sub>排出量実績

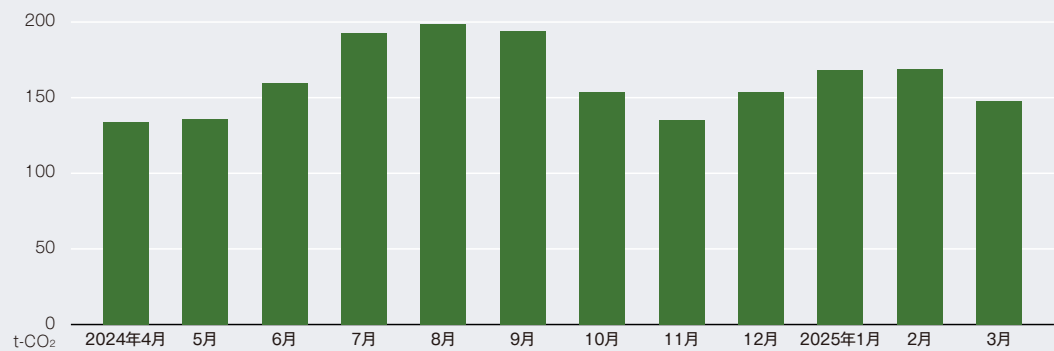
2024年度CO<sub>2</sub>排出量  
(年間)

SCOOP 1  
128.01 t-CO<sub>2</sub>

SCOOP 2  
1815.69 t-CO<sub>2</sub>



2024年度CO<sub>2</sub>排出量(月別)



## 省エネルギーへの取り組み

### オフィス照明の省エネ化

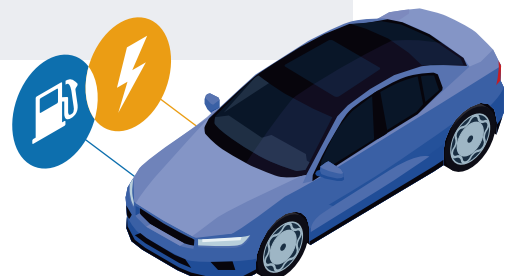
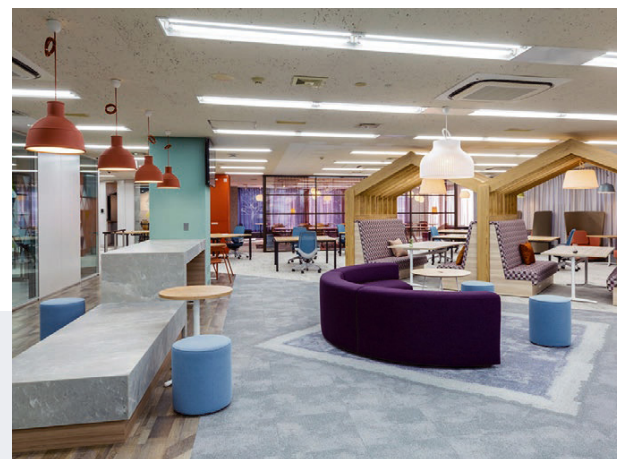
各オフィスの照明にLED照明を採用しているほか、休憩時間の自動消灯・点灯をしています。

### オフィス什器への環境配慮製品の導入

執務室や会議室の什器に、従来製品より製造時や破棄・リサイクル時のCO<sub>2</sub>排出量の少ない製品を採用しています。

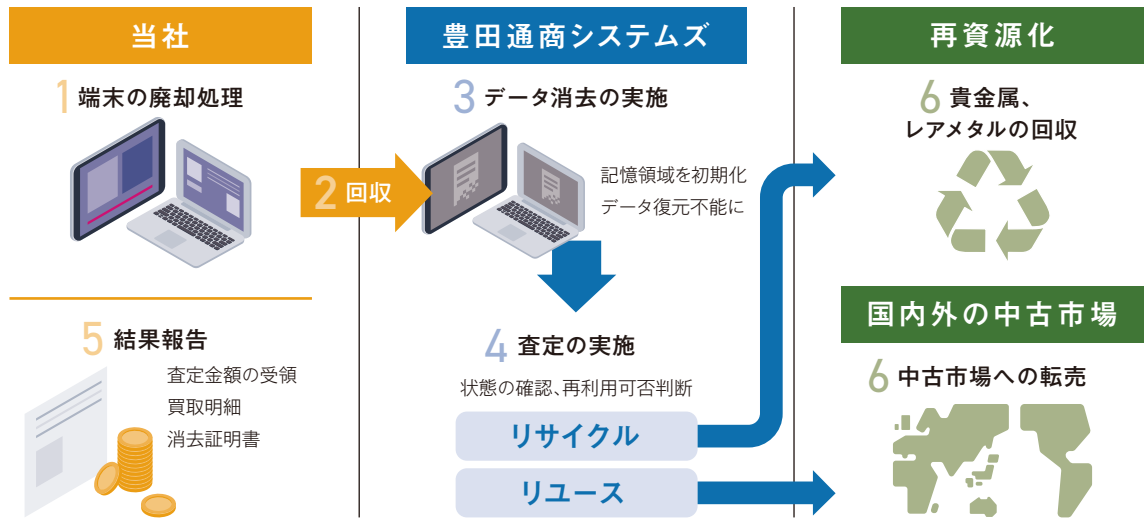
### 社有車台数の見直し・エコカーの導入

出張移動時のCO<sub>2</sub>排出量削減のため、公共交通機関利用の推奨や社有車保有台数の見直しを行っています。また社有車にはハイブリット車両を優先的に導入しています。



当社は豊田通商システムズ(株)のサービスを活用し、IT機器のリユース・リサイクルを実施しています。  
今後も資源の有効活用に取り組んでまいります。

## IT機器リユース・リサイクルの流れ



### 削減実績

約**9.5t**  
の廃棄物発生を削減

| 項目    | 台数     | 重量      |
|-------|--------|---------|
| 総量    | 2,966台 | 9,512kg |
| リユース  | 1,591台 | 3,444kg |
| リサイクル | 1,375台 | 5,939kg |

### 再資源化率

約**96.7%**  
の資源利用に貢献

| 項目      | 数量      |
|---------|---------|
| リサイクル重量 | 5,939kg |
| 再資源化重量  | 5,743kg |
| 再資源化率   | 96.7%   |

### 雇用創出

約**27.5人日分**  
の雇用創出に貢献

| 項目      | 数量      |
|---------|---------|
| リサイクル重量 | 5,939kg |
| 解体業務時間  | 13,218分 |
| 雇用創出人数  | 27.5人日  |

### 海外流通台数

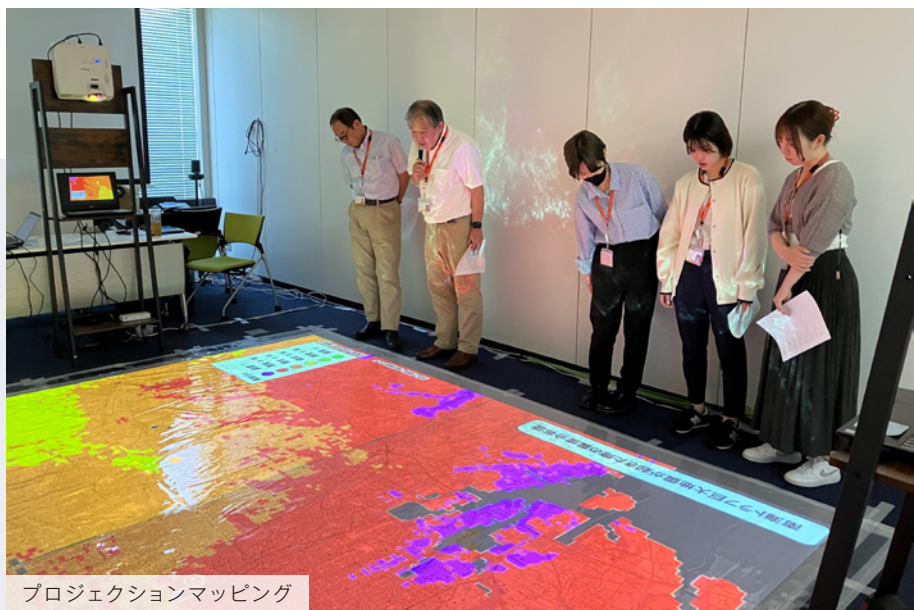
約**54台**  
が途上国でリユース

| 項目      | 数量     |
|---------|--------|
| リユース台数  | 1,591台 |
| 海外出荷台数  | 54台    |
| 海外出荷台数率 | 3.4%   |

※取り扱い対象物件はノートPC、デスクトップPC、液晶モニター、サーバー、ワークステーション、ネットワーク機器(ルーター、スイッチ)、スマートフォン、タブレットのIT機器に限定しています。 ※取り扱い対象物件の重量は、ACアダプターを含めた豊田通商システムズ(株)算定概算重量となります。

特集  
3  
防災イベント

2024年9月、防災教育の一環として防災イベントを開催しました。イベントには700名を超える方が参加し、非常用トイレの体験や備蓄品の試食、被害想定プロジェクションマッピングなど、体験・見学をしながら学べる防災教育の場を提供しました。



プロジェクションマッピング



応急手当



備蓄食試食



段ボールベッド体験



非常用トイレ体験



備蓄品展示

大規模災害はいつ起きてもおかしくありません。いざという時、自身や大切な家族や仲間を守るためにも、日頃から災害が発生した状況をイメージしておくことが重要です。今後も訓練やイベントなどの活動をととして、会社全体の防災意識向上に努めていきたいと考えています。

特集  
4  
TS  
パ  
ー  
ト  
ナ  
ー  
会

2024年5月13日(月)、TSパートナー会総会を実施しました。

パートナー会社の皆様にTSのVision2030を共有し、日頃の感謝をお伝えいたしました。

懇親会ではパートナー会社の皆様と交流を深めました。



お出迎え



総会



総会



懇親会



事務局メンバー

パートナー会社 約70社、約140名の皆様にご参加いただきました。弊社との対話はもちろん、パートナー会社間での活発な情報交換が行われ、今後のビジネスに繋がる貴重なきっかけとなりました。

